

## 第三次岩波版『鷗外全集』〈第二刷〉収載の書簡錯簡考

広石 修  
山崎 一穎

### 要 旨

鷗外の自筆書簡は、第三次岩波版『鷗外全集』第三十六卷（一九七五年三月三十一日第一刷発行、一九八九年十一月二日第二刷発行）に収録されている。全集には現在一六五四通（第一刷一―一五六〇通、第二刷一五六一―一六五四通）が掲出されている。

森鷗外記念館（鳥根県鹿足郡津和野町）の広石修副館長が試みた鷗外の末弟潤三郎の東京・京都の転居先の住所確認の作業が発端となつて、文京区立鷗外記念本郷図書館所蔵の家族宛葉書と『鷗外全集』所載の葉書とを対校する作業を個別に行ない、対照させた。その結果二十一通（鷗外妻志け宛三通、弟潤三郎宛四通、長子於菟宛十四通）に疑義が出てきた。この二十一通を文京区立鷗外記念本郷図書館で実物を閲覧した。

その結果、全集の表記を訂正すべき葉書（十七通）、全集の表記を訂正すべき可能性が高いが、なお全集未収載の可能性を残している葉書（一通）、全集未収載の葉書（三通）が確認された。本稿は共同作業により、『鷗外全集』収載の葉書の錯簡の調査報告である。

はじめに

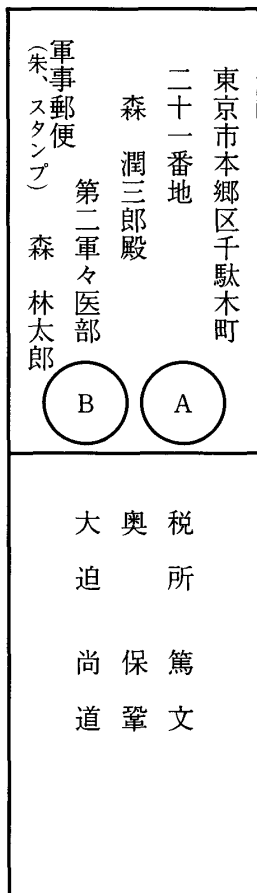
森鷗外記念館（津和野町）発行の館報「ミュージアムデータ」3号（平成十一年八月三十一日発行）では、館が所蔵している未公開の資料（鷗外所持の住所録）を公開した。広石修副館長は住所録の使用年代を特定するために、一頁めに記載されている弟潤三郎の住所の訂正に着目した。そこには「京都市上京区岡崎町字入江四十七」が朱筆で抹消され、その右側に朱筆で、「芝區白金三光町四三吉田別荘」と訂正されている。さらに墨筆で「四三吉田別荘」が消され、その右に「三〇八」と墨筆で訂正されている。

潤三郎は上田敏の紹介で、明治四十二年（一九〇九）の暮以降、増築された京都府立京都図書館司書として勤務している。そこで広石氏は、明治四十二年から鷗外死去の大正十一年（一九二二）までの間、潤三郎宛に家族、知友から投函された書簡、葉書を調査し、潤三郎の住所の変更を辿った。その際、文京区立鷗外記念本郷図書館発行の「森鷗外資料目録」（平成8年版）と、岩波版『鷗外全集』と、文京区立鷗外記念本郷図書館所蔵の書簡のマイクロフィルムを使用した。照合してみると、そのうちの一通である森於菟宛葉書（転載、『鷗外全集』所載の書簡番号、五一五の明治三十八年八月七日付）は、七月二十三日（消印）付森潤三郎宛ではないかという疑念が生じた。さらにもう一通の、明治三十八年七月六日（消印）付森潤三郎宛葉書は、未発表、全集未収載ではないかと広石氏は考え、私に調査確認を依頼して来た。

私は広石氏の依頼事項に驚いた。最初の、於菟宛の葉書の八月七日付と、潤三郎宛の葉書の七月二十三日付の日日の懸隔から、私は各々別の葉書かも知れないと考えた。それにしても、文京区立鷗外記念本郷図書館所蔵の鷗外の自筆書簡を、全集編纂者が調査をしていないとは信じ難いので、何かの誤りではないかと思いつつ、平成十一年九月一日本郷図書館に出掛け、実際の葉書を確認した。

そして、全集所載の八月七日付森於菟宛葉書は、明らかに七月二十三日（消印）付森潤三郎宛葉書であることを確認した。この葉書は、戦場からの発信消印が七月二十三日で、東京駒込局の着信消印が八月七日である。全集の八月七日はこの着信消印を採用してしまったものと思われる。

広石氏の指摘する未発表、未収載のもう一通の葉書は、次の様になっている。



- ① 発信消印 第二軍／381716／第二野戦局
- ② 着信消印 東京駒込／381717／后31□
- ③ 税所篤文（第二軍砲兵部長）、奥保鞏（おくやすかた、第二軍司令官）、大迫尚道（第二軍参謀長）の寄せ書きである。それ故に、全集の編集方

針として削除されたものと思われ、未発表、未収載というわけにはいかないことを広石氏に伝えた。なお、鷗外は潤三郎へ投函した寄せ書きと同じものを、同日(七月六日)於菟へも投函している。

次に広石氏は、鷗外夫人志げ、弟潤三郎、長子於菟宛の葉書の調査に取り掛かることを伝えて来た。

広石氏から『鷗外全集』所載の葉書の宛名に疑義があるとの連絡を受け、私の方でも調査をし、それを照合することで再考してみようということになった。

広石氏と私が調査をしたものを照合した所、志げ宛三通、潤三郎宛四通、於菟宛十四通、計二十一通の葉書が『鷗外全集』所載のものと相違しているのではないかという疑いが出て来た。そこで私は九月三十日に本郷図書館へ出掛け、二十一通の葉書の実物を確認した。

その結果、二十一通の葉書は、全集未収載のもの三通、宛名、年月日の相違があつて、全集の訂正を要するもの十七通、誤記か、誤記でなければ全集未収載か、判断のつかないものが一通あることが判明した。本考はこの報告である。

(一)全集の表記を訂正すべき葉書(十七通)

〔注記〕

1 翻字にあたって旧漢字は新漢字に改めたが、仮名遣いはそのままとした。

2 見出しの表記は、岩波版『鷗外全集』に拠った。

三六〇 明治三十七年五月二十六日 東京 森於菟宛 陣中より (端書) 転載

軍用葉書 (朱、印刷) 東京市本郷区駒込千駄木町 二十一番地 森 於菟殿 第二軍々医部 森 林太郎 (朱、印刷)	聞よりも雨風よりも すさまじき 空の 稲妻 仇の さくり 火 五月二十六日 鶴友生
(訂)	南山戦闘紀念絵葉書

① 発信消印 第二軍38-5-27不明 絵葉書 電報送達紙の電文例

② 着信消印 東京駒込38-6-7前9-40

訂正

① 明治三十八年五月二十六日 東京市本郷区駒込千駄木町二十一番地 森於菟宛 第二軍々医部より

訂正理由は、発信・着信の消印に拠る。全集が明治三十七年としたのは、詩歌集『うた日記』(明治四十年九月、春陽堂)に拠ったものと思われる。『うた日記』には、「明治三十七年五月二十六日午前二時鍾家屯を発す」と前書きがあつて、

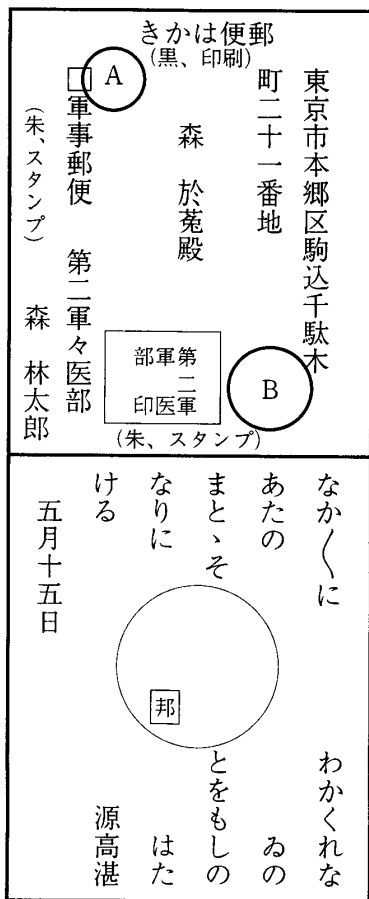
聞よりも 雨風よりも すさまじき 空のいなづま あたの探火と記されている。明治三十七年五月二十六日は作歌の製作年月日であっても、書簡の日付ではない。

② 「転載」を削除する。岩波版『鷗外全集』第三十六卷(書簡編)の

「後記」に「校訂にあたっては今回実物を確認し得たものは新収・既収を問わず実物に拠り、その他は前回の全集通りとした」と記し、校訂の方針として、「直接肉筆に当らず印刷物に拠ったものは前回同様（転載）と記した。／（見出し）の数字は書簡番号を示す」と記されている。

③全集の本文表記を訂正する。

三六一 明治三十七年五月二十六日 森於菟宛 陣中より（転載）



①発信消印 不明/38-5-15/第□野戦□ 絵葉書 双鶴図

②着信消印 □込/38-5-23/□5-30

訂正

①明治三十八年五月十五日 東京市本郷区駒込千駄木町二十一番地 森於菟宛 第二軍々医部より

訂正理由は、発信・着信の消印と、五月十五日の鷗外自署に拠る。

『うた日記』に「同日（明治三十七年五月二十六日）於肖金山」と前書き

があつて、

なかなか 敵の的とぞ なりにける 紅しるき 十文字の旗

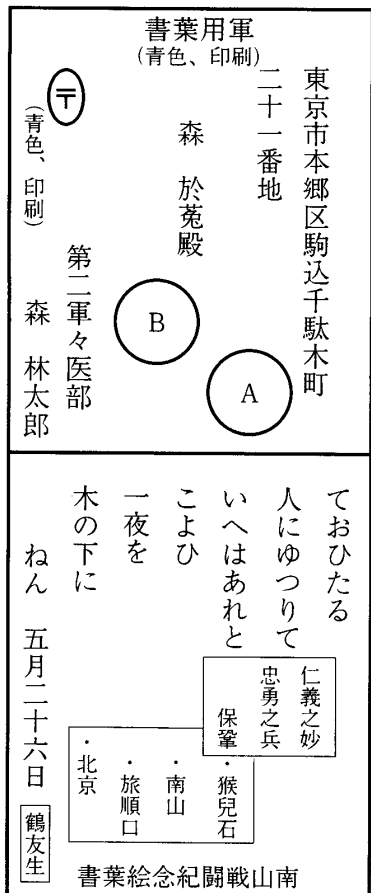
と詠まれている。肖金山は南山の向かい側に位置し、第二軍の南山攻撃の拠点となった。葉書の消印は明治三十八年であるが、三十七年の南山の戦闘を詠んだものと解してよい。しかし、書簡の作歌製作年月日が五月十五日で、『うた日記』が五月二十六日「けふのあらし」（同日於肖金山）の後に「なかなか」以下三首が置かれている。今まで問題にされてこなかったが、ここに『うた日記』の時間の操作がある。

②「転載」を削除する。

③全集の本文表記を訂正する。

なかなか↓なかなかに あたのまととぞ↓あたのまと、そ わがくれなるの↓わがくれなるの とをもしのはた↓とをもしのはた

三六一 明治三十七年五月二十六日 東京 森於菟宛 陣中より（端書）



①発信消印 第二軍/38-5-2/不明 絵葉書 揮毫、地図

② 着信消印 東京駒込 38-6-□ 前9・40

訂正

① 明治三十八年五月二十六日 東京市本郷区駒込千駄木町二十一番地 森於菟宛 第二軍々医部より

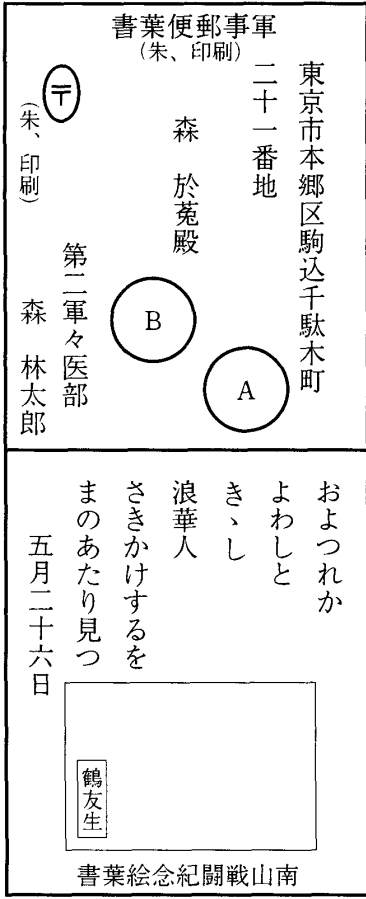
訂正理由は、発信・着信の消印に拠る。『うた日記』には前出の「なかなか」の歌とともに収録されている。すなわち、  
ておひたる 人にゆづりて 家はあれど 今宵一夜を 木のもとに寝んと詠まれている。

② 「転載」を削除する。

③ 全集の本文表記を訂正する。

人にゆづりて↓人にゆづりて いへはあれど↓いへはあれと

三六三 明治三十七年五月二十六日 東京 森於菟宛 陣中より(転載)



① 発信消印 第二軍 38-5-27 不明 絵葉書 南山遠望図

② 着信消印 東京駒込 38-6-7 前9・40

訂正

① 明治三十八年五月二十六日 東京市本郷区駒込千駄木町二十一番地 森於菟宛 第二軍々医部より

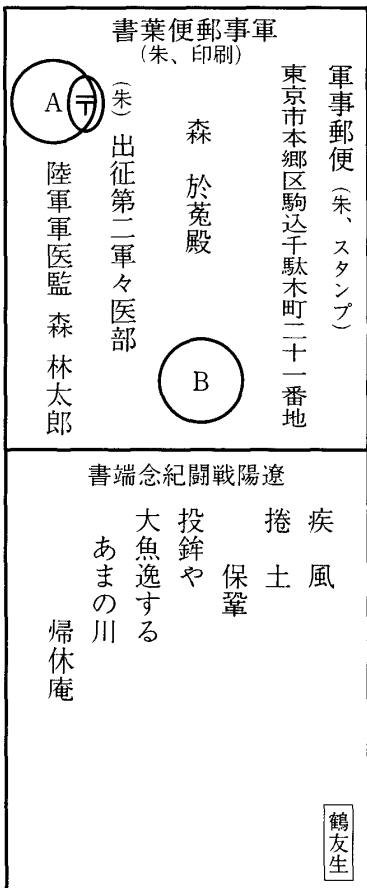
訂正理由は、発信・着信消印に拠る。『うた日記』所載の前出の「なかなか」、「ておひたる」の一群の歌の二首目に置かれている。そこには  
およづれか よわしと聞きし 浪速人 先駆するを まのあたり見つと詠出されている。

② 「転載」を削除する。

③ 全集の本文表記を訂正する。

およづれか↓およづれか ききし↓き、し ささかけするを↓ささかけするを

三八六 明治三十七年十月九日 森於菟宛 遼陽より(端書 転載)



① 発信消印 第二軍 38-10-9 第二野 絵葉書 揮毫、炎上する敵陣

⑧ 着信消印 東京駒込/38-10-16/后9・20

訂正

① 明治三十八年十月九日 東京市本郷区駒込千駄木町二十一番地 森於菟苑 出征第二軍々医部より

訂正理由は、発信・着信の消印に拠る。『うた日記』中に「明治三十七年九月九日於遼陽」と前書きがあつて、

あた遠く のがれし迹の 空澄みて 鱗形ぐも あしたしづけき  
 投銚や 大魚逸して あまの河

と記されている。全集収録の葉書には「銚投や」（全集の誤記、正しくは「投銚や」）の俳句の後に、全集編纂者が「明治三十七年九月九日於遼陽」と補記し、見出しに「遼陽より」と記している。この「遼陽より」を「出征第二軍々医部より」に訂正する。岩波版『鷗外全集』では、ほぼ「陣中より」に統一しながら、地名で記したり、鷗外の表記（第二軍々医部より等）を記したり整合性が見られない。

② 「転載」を削除する。

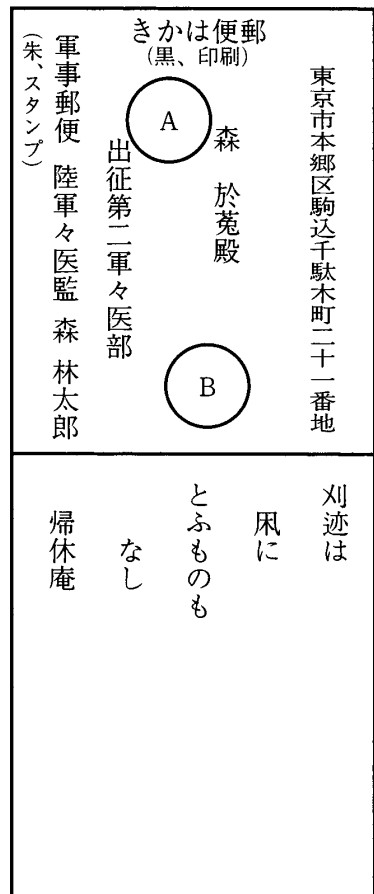
③ 全集の本文表記を訂正する。

銚投や↓投銚や

参考

全集の「後記」も適切でない。「心の花」第九卷第十一号（明治三十八年十一月一日）に「投銚や大魚逸する天の川 帰休庵」とある。

三九四 明治三十七年十月二十一日 森於菟苑 大荒地より（転載）



⑨ 発信消印 第二軍□10-21/不明 絵葉書 田園風景(近景)と高山(遠景)

⑩ 着信消印 不明/不明/前6

訂正

① 明治(三十八年(推定))十月二十一日 東京市本郷区駒込千駄木町二十一番地 森於菟苑 出征第二軍々医部より

発信・着信消印を参照しても、明治三十七年とは特定できない。ただ、『うた日記』に「明治三十七年十月十日於大荒地」と前書きがあつて、九句詠まれた二句目に「刈迹は 木枯に飛ぶ ものみなし」と詠われている。明治三十七年十月十日に作句されたことは事実であるが、すでに作歌、作句の年月日と葉書の投函された年月日とにずれがあることは考察してきた。「軍医監」「帰休庵」の官名、別号の使用年月日より、明治三十八年と推定する。

なお、全集本文は俳句の後に編纂者による「明治三十七年十月十日於大荒地」の補記があるが、これを削除する。この部分は注記として別記する。そのような処置をしている現行全集の「後記」のごとき表記でよ

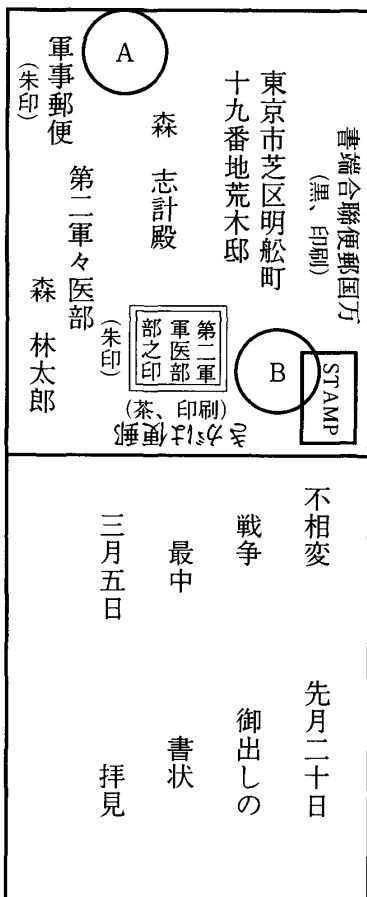
い。

② 「転載」を削除する。

③ 全集の本文表記を訂正する。

刈跡は↓刈迹は 凧にとぶ↓凧にとぶ

四三九 明治三十八年三月五日 東京 森於菟宛 陣中より（端書）



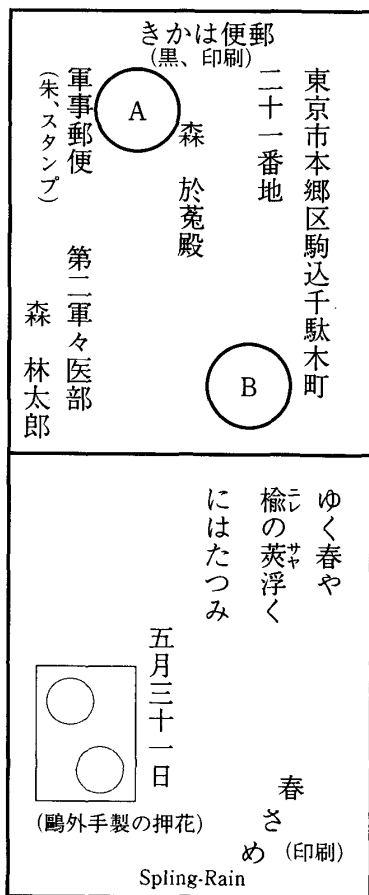
① 発信消印 第二軍 3-5 / 不明 絵葉書 馬上の兵士が抜刀して疾走す  
 ② 着信消印 不明 / 38-16 / 后 3-30 森 林太郎

訂正

① 明治三十八年三月五日 東京市芝区明船町十九番地荒木邸 森志計宛  
 第二軍々医部より

明治三十八年三月七日付志け宛書簡（書簡番号四四一）に「こなひだ  
 二月二十日のお前さんの手紙の来たことは葉書でいつてあげたつげが  
 とゞいたらうね」とあり、三月五日付のこの葉書の文言と付合する。  
 よって葉書の内容から森於菟宛ではないことが確認できる。

四七六 明治三十八年五月三十日（消印三十一日） 東京 森於菟宛  
 陣中より



① 発信消印 第二軍 38-5-31 / □□□□□□ 絵葉書 蛇の目傘に春雨が花び  
 ② 着信消印 東京駒込 38-6-17 / 后 5 森 林太郎

訂正

① 明治三十八年五月三十一日 東京市本郷区駒込千駄木町二十一番地  
 森於菟宛 第二軍々医部より

訂正理由は、葉書に記した鷗外の自署に拠る。依って、全集見出しの  
 「消印三十一日」を削除する。なお、『うた日記』に「明治三十八年五  
 月三十一日於慶雲堡」と前書きがあつて、  
 ゆく春や 榆の莢浮く にはたつみ  
 と掲出されている。

② 全集の本文表記を訂正する。  
 榆の莢浮く↓榆の莢浮く にはたつみ↓にはたつみ

四八九 明治三十八年六月十九日 森於菟宛 陣中より (絵端書 転載)

<p>東京市本郷区駒込千駄木町二十一番地</p> <p>森 於菟殿</p> <p>第二軍々医部</p> <p>軍事郵便 森 林太郎</p> <p>(朱、スタンプ)</p> <p>① A</p> <p>② B</p>	<p>旧に依り無事に候○此画は従軍画匠寺崎広業氏の写生に候○馬丁より足袋一足追送品に御入被下度旨申出候</p> <p>六月十九日 林太郎</p> <p>③ 広業</p>
---	--

④ 発信消印 □二重<37-□-□>不明 絵葉書 衛生兵が負傷兵の手当をして

⑤ 着信消印 東京駒込<37-7-5>后1・30 いる画

訂正

① 明治三十七年六月十九日 東京市本郷区駒込千駄木町二十一番地 森於菟宛 第二軍々医部より

訂正の理由は、発信の消印に拠る。なお、寺崎広業の関係で言えば、

「東京美術学校教授従七位 寺崎広業」の名刺に鷗外が鉛筆で記した添え書き(森鷗外記念館<津和野>所蔵)が、現行の全集(書簡番号四九〇)では明治三十八年六月二十一日と特定されているが、これも「明治三十七年六月二十一日」に訂正しなければならない。この訂正根拠については、『森鷗外 明治知識人の歩んだ道 注記』(平成八年三月二十一日、注記者 山崎一穎、編集発行 森鷗外記念館)三〇頁を参照。

② 「転載」を削除する。

五一四 明治三十八年八月六日 東京 森於菟宛 陣中より (転載)

<p>東京市本郷区駒込千駄木町二十一番地</p> <p>森 於菟殿</p> <p>第二軍々医部</p> <p>軍事郵便 森 林太郎</p> <p>(朱、スタンプ)</p> <p>① A</p> <p>② B</p>	<p>なにとなきおもひ出くるしあまりにもおとなしき子とかきおこせつる</p> <p>高湛</p>
---	--

④ 発信消印 第二軍<38-8-5>第□野戦局 絵葉書 竹藪と鶏の親子の絵

⑤ 着信消印 東京駒込<□-□-11>后8・□

訂正

① 明治三十八年八月五日 東京市本郷区駒込千駄木町二十一番地 森於菟宛 第二軍々医部より

訂正理由は、発信消印に拠る。

② 「転載」を削除する。

五一五 明治三十八年八月七日 東京 森於菟宛 陣中より (転載)

<p>東京市本郷区駒込千駄木町二十一番地</p> <p>森 潤三郎殿</p>	<p>野にさめて さすかたしらぬ あこ がれに</p> <p>① A</p> <p>② B</p> <p>M、K</p>
--	--



き  
軍事郵便 第二軍々医部  
(朱、スタンプ) 森 林太郎  
うつむき  
立てる  
姫百合のはな

- ① 発信消印 第二軍/38-7-23/第二野戦局 絵葉書 三色堇の花の絵  
② 着信消印 東京駒込/38-8-7/后7-30

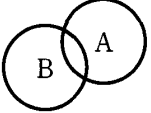
訂正

① 明治三十八年七月二十三日 東京市本郷区駒込千駄木町二十一番地  
森潤三郎宛 第二軍々医部より  
年月日は発信消印に拠り、宛名は鷗外の自筆に拠って訂正した。なお、『うた日記』中に「明治三十八年七月十七日於古城堡」の前書きがあつて、五首掲出されているうちの一首である。次に記す。  
野にさめてさすかた知らぬ 係慕あこがれに、うつむきたてる 姫百合ひめゆりのはな

② 「転載」を削除する

五二六 明治三十八年八月七日 東京 森於菟宛 陣中より (転載)

東京市本郷区駒込千駄木町二十一番地  
郵便便 (黒、印刷) 森 於菟殿  
軍事郵便 第二軍々医部  
(朱、スタンプ) 森 林太郎



あした媚ぶる紅鳳ベニ仙花ひとり野に  
われそだちぬとひそめきかたる  
こと草クサに丈タケは  
おとらぬ葉鶏頭  
すくすくしさよまだ色づかぬ

M、K

① 発信消印 不明/38-7-23/不明 絵葉書 南国の花の絵  
② 着信消印 東京駒込/38-8-2/后7-30

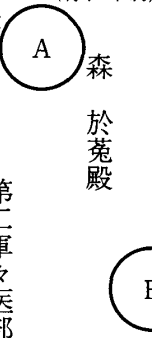
訂正

① 明治三十八年七月二十三日 東京市本郷区千駄木町二十一番地 森於菟宛 第二軍々医部より  
訂正理由は、発信消印に拠る。『うた日記』中に「明治三十八年七月十七日於古城堡」の前書きがあつて、  
あした媚ぶる紅鳳ベニ仙花ひとり野にわれそだちぬとひそめきかたる  
こと草クサに 丈タケはおとらぬ 葉鶏頭はげいとう すくすくしさよ まだ色いろづかぬ  
と掲出されている。

② 「転載」を削除する。

五二九 明治三十八年八月八日 東京 森於菟宛 陣中より (絵端書)

東京市本郷区駒込千駄木町二十一番地  
郵便便 (青、印刷) 森 於菟殿  
軍事郵便 (青、印刷) 第二軍々医部  
郵便 森 林太郎



秋立つ日 勅使迎ふる 陣屋哉  
八月八日 帰休庵  
扉歩哨 白道筆 日露戦役に方り従軍々人に頒つため之を製す  
明治三十八年 陸軍恤兵部

- ① 発信消印 第二軍/38-8-8/不明 絵葉書 歩哨兵  
② 着信消印 東京駒込/38-8-1/后9-20

訂正

①明治三十八年八月八日 東京市本郷区駒込千駄木町二十一番地 森於菟宛 第二軍々医部より

『うた日記』中に「明治三十八年八月八日於古城堡」と前書きがあったて、「秋立つ日 勅使迎ふる 陣屋かな」と詠まれている。

②全集の本文表記を訂正する。

あき立つ日↓秋立つ日 帰休↓帰休庵

五三一 明治三十八年八月二十四日 東京 森 於菟宛 陣中より(転載)

<p>きかは便郵 (文字白抜き)</p> <p>東京市本郷区駒込千駄木町 二十一番地</p> <p>森 潤三郎殿</p> <p>軍事郵便 (朱、スタンプ)</p> <p>第二軍々医部 森 林太郎</p> <p>A</p>	<p>B</p>
<p>ヒヤ 火 箭 た め す よ す が ら 玉 や か ぎ 屋 哉</p> <p>八月二十四日</p> <p>☒</p>	

①発信消印 不明/38・8・25/不明 絵葉書 近景に椰子の木、川舟を漕ぐ人、

②着信消印 駒込/38・9・2/后?・30 遠景に山を配す

訂正

①明治三十八年八月二十四日 東京市本郷区駒込千駄木町二十一番地 森潤三郎宛 第二軍々医部より

この俳句は『うた日記』に収録されている。「明治三十八年九月於古

城堡」と前書きがあった、「火箭ためす よすがら玉屋 鍵屋哉」と詠まれている。ここにも『うた日記』の時間の虚構がある。

②「転載」を削除する。

五三九 明治三十八年九月七日 東京 森於菟宛 陣中より(転載)

<p>きか葉便郵 (黒、印刷)</p> <p>東京市本郷区駒込千駄木町 二十一番地</p> <p>森 潤三郎殿</p> <p>軍事郵便 (朱、スタンプ)</p> <p>第二軍々医部 森 林太郎</p> <p>A</p>	<p>B</p>
<p>通江口にて九月七日</p> <p>川隈に よとみてかわく 泥の道 ふめは 蹄の 下にゆらめく</p> <p>(ジュアジェット制作 パリのドーム湖の 片隅にて Procédés C. Jeanette 39.-PARIS.-Un Coin du Lac Daumesnil.)</p>	

①発信消印 第二軍/38・9・9/不明 絵葉書 ドーメニル湖畔の風景(写真)

②着信消印 不明/不明/后?・30

訂正

①明治三十八年九月七日 東京市本郷区駒込千駄木町二十一番地 森潤三郎宛 第二軍々医部(通江口)より

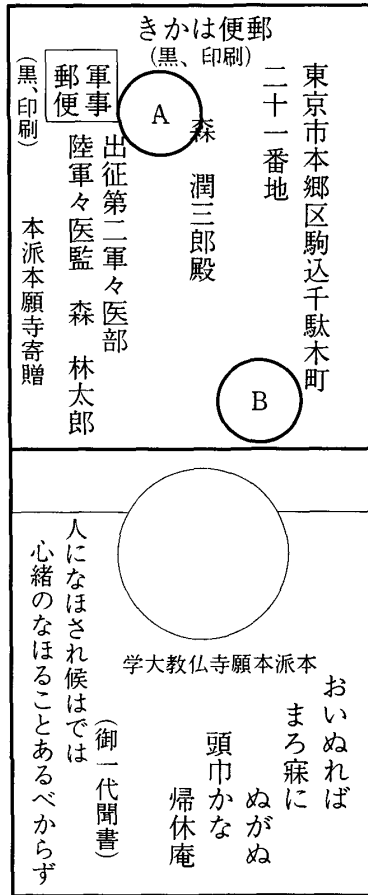
『うた日記』中に「同日(三十八年九月七日)三家子より北のかた通江口に至る」と前書きがあったて、

川隈に よとみてかわく 泥のみち ふめは蹄の したにゆらめくと詠出されている。

②「転載」を削除する。

③全集の本文表記を訂正する。  
よどみて↓よとみて ふめば↓ふめは

六二六 明治三十八年十二月三十日 東京市本郷区駒込千駄木町二十一  
番地 森潤三郎宛 出征第二軍々医部より(端書)



① 発信消印 第二軍/38・12・22/不明 絵葉書 本派本願寺仏教大学の外観

② 着信消印 不明/□□12・30/后7・30 (写真)

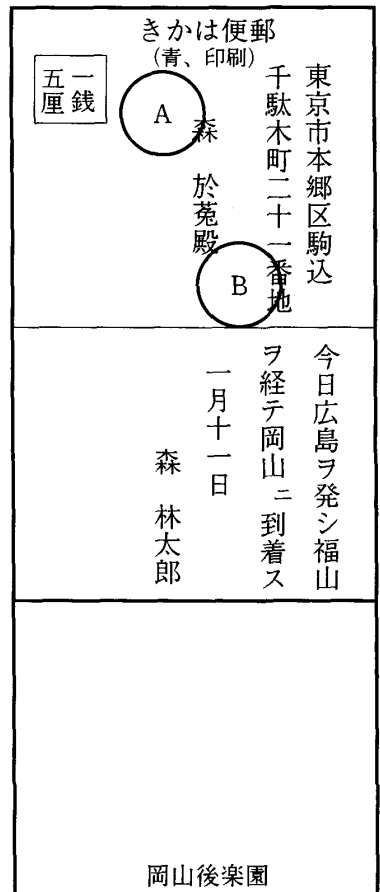
訂正

① 明治三十八年十二月二十二日 東京市本郷区駒込千駄木町二十一番地  
森潤三郎宛 出征第二軍々医部より

全集収載のこの葉書は「転載」ではないので、実物を確認したと思われる。その際誤って着信消印「十二月三十日」を採用してしまったのではないか。改めて発信消印の「十二月二十二日」に訂正する。

六九三 明治四十三年一月十日 東京市本郷区駒込千駄木町二十一番地  
森於菟宛(端書)

(表) (裏)



① 発信消印 不明/43・1・11/下関発后214・30 絵葉書 岡山後楽園(写真)

② 着信消印 駒込/43・1・13/前016

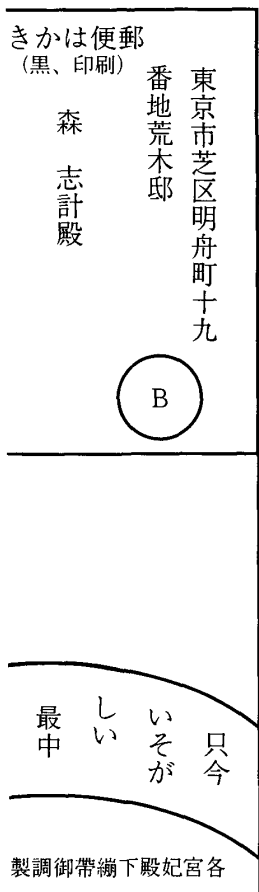
訂正

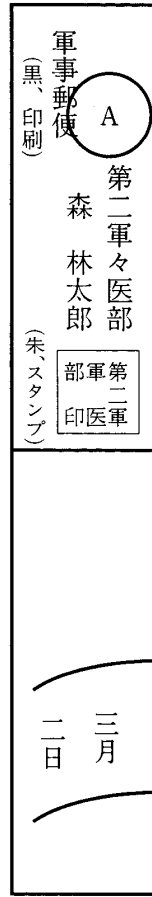
① 明治四十三年一月十一日 東京市本郷区駒込千駄木町二十一番地 森於菟宛 森林太郎

葉書本文中に鷗外が記した年月日に拠り訂正する。

(二)全集の誤記か、未収載か判断保留の葉書(一通)

四三八 明治三十八年三月二日 東京 森於菟宛 陣中より(転載)





- ④ 発信消印 第二軍 3-2 不明 絵葉書 各宮妃殿下包帯御調製(写真)
- ⑤ 着信消印 不明

**考察1**

岩波版全集収載の葉書を次に掲載する。

四三八 明治三十八年三月二日 東京 森於菟宛 陣中より (転載)

只今いそがしい最中 三月二日

- ⑥ 全集の記載が誤記であった場合

**訂正**

① 明治三十八年三月二日 東京市芝区明舟町十九番地荒木邸 森志け宛

第二軍々医部より

- ② 「転載」を削除する。

- ③ 全集の記載が正しいと見た場合

この明治三十八年三月二日付森志け宛葉書は、全集未収録である。

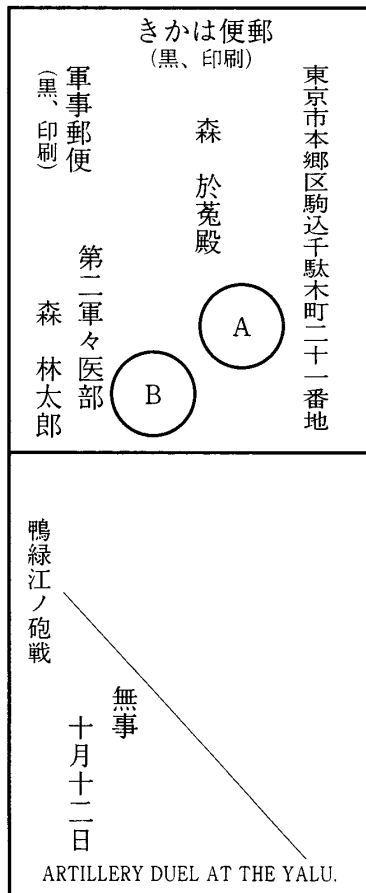
**考察2**

④⑤と判断が分かれる理由について記す。明治三十七年十月十二日付森於菟宛、森志け宛絵葉書、同年十月十六日付森於菟宛、森志け宛絵葉書は、絵柄が違って、「無事」、「当方無事」と同文である。それ故に全集から一方が欠落してしまっている。この事に照らして、この三月二日付の「只今いそがしい最中」が、森於菟宛、森志け宛に投函され

たと考えることも可能である。ただし、現在森志け宛葉書は実在を確認できるが、森於菟宛葉書は確認できない。その意味で全集の誤記と考える方がよいかも知れない。

**(三)全集未収載の葉書 (三通)**

- 明治三十七年十月十二日 東京市本郷区千駄木町二十一番地 森於菟宛 第二軍々医部より

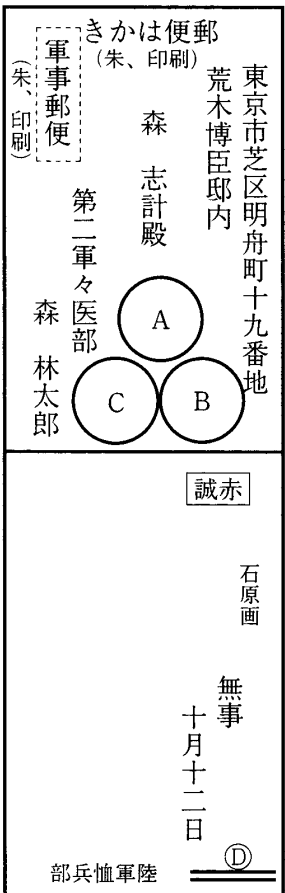


- ⑦ 差出人認印 林/太郎 絵葉書 鴨緑江の砲戦

- ⑧ 着信 消印 東京駒込 37-10-21/后1:30

**参考**

全集収載の森志け宛葉書(書簡番号三八八)を次に掲載する。



東京市本郷区駒込千駄木町  
郵便 二十一番地  
便印 森 於菟殿  
は印刷 森 第二軍々医部  
か(茶、) 森 林太郎  
き(茶、) 森 林太郎

① 差出人認印 林/太郎 絵葉書 戰場へ送る白衣を畳む主婦  
② 発信 消印 第二軍/37-10-12/不明  
③ 着信 消印 東京芝/37-11-2/不明

①明治三拾七年日露戦役二方リ/従軍軍人二頒ツタメ之ヲ製ス

●明治三十七年十月十六日 東京市芝区明舟町十九番地荒木博臣邸 森  
志け宛 第二軍々医部より

東京市芝区明舟町十九番地  
荒木博臣邸  
郵便 森 志計殿  
便印 森 志計殿  
は印刷 森 志計殿  
か(朱、) 森 志計殿  
き(朱、) 森 志計殿

軍事郵便  
第二軍々医部  
森 林太郎

忠 勇  
十月十六日  
当方無事  
(白色)

明治三拾七年日露戦役二方リ  
従軍軍人二頒ツタメ之ヲ製ス  
陸軍恤兵部

東京市本郷区駒込千駄木町  
郵便 二十一番地  
便印 森 於菟殿  
は印刷 森 第二軍々医部  
か(茶、) 森 林太郎  
き(茶、) 森 林太郎

① 差出人認印 林/太郎 絵葉書 戰場へ送る白衣を畳む主婦  
② 発信 消印 第二軍/37-10-12/不明  
③ 着信 消印 東京芝/37-11-2/不明

①明治三拾七年日露戦役二方リ/従軍軍人二頒ツタメ之ヲ製ス

●明治三十七年十月十六日 東京市芝区明舟町十九番地荒木博臣邸 森  
志け宛 第二軍々医部より

東京市芝区明舟町十九番地  
荒木博臣邸  
郵便 森 志計殿  
便印 森 志計殿  
は印刷 森 志計殿  
か(朱、) 森 志計殿  
き(朱、) 森 志計殿

軍事郵便  
第二軍々医部  
森 林太郎

忠 勇  
十月十六日  
当方無事  
(白色)

明治三拾七年日露戦役二方リ  
従軍軍人二頒ツタメ之ヲ製ス  
陸軍恤兵部

東京市本郷区駒込千駄木町  
郵便 二十一番地  
便印 森 於菟殿  
は印刷 森 第二軍々医部  
か(茶、) 森 林太郎  
き(茶、) 森 林太郎

① 差出人認印 林/太郎 絵葉書 戰場へ送る白衣を畳む主婦  
② 発信 消印 第二軍/37-10-12/不明  
③ 着信 消印 東京芝/37-11-2/不明

①明治三拾七年日露戦役二方リ/従軍軍人二頒ツタメ之ヲ製ス

●明治三十七年十月十六日 東京市芝区明舟町十九番地荒木博臣邸 森  
志け宛 第二軍々医部より

東京市芝区明舟町十九番地  
荒木博臣邸  
郵便 森 志計殿  
便印 森 志計殿  
は印刷 森 志計殿  
か(朱、) 森 志計殿  
き(朱、) 森 志計殿

軍事郵便  
第二軍々医部  
森 林太郎

忠 勇  
十月十六日  
当方無事  
(白色)

明治三拾七年日露戦役二方リ  
従軍軍人二頒ツタメ之ヲ製ス  
陸軍恤兵部

東京市本郷区駒込千駄木町  
郵便 二十一番地  
便印 森 於菟殿  
は印刷 森 第二軍々医部  
か(茶、) 森 林太郎  
き(茶、) 森 林太郎

① 差出人認印 林/太郎 絵葉書 戰場へ送る白衣を畳む主婦  
② 発信 消印 第二軍/37-10-12/不明  
③ 着信 消印 東京芝/37-11-2/不明

①明治三拾七年日露戦役二方リ/従軍軍人二頒ツタメ之ヲ製ス

●明治三十七年十月十六日 東京市芝区明舟町十九番地荒木博臣邸 森  
志け宛 第二軍々医部より

東京市芝区明舟町十九番地  
荒木博臣邸  
郵便 森 志計殿  
便印 森 志計殿  
は印刷 森 志計殿  
か(朱、) 森 志計殿  
き(朱、) 森 志計殿

軍事郵便  
第二軍々医部  
森 林太郎

忠 勇  
十月十六日  
当方無事  
(白色)

明治三拾七年日露戦役二方リ  
従軍軍人二頒ツタメ之ヲ製ス  
陸軍恤兵部

参考

全集収載の森於菟宛葉書(書簡番号三八九)を次に掲載する。

- ① 差出人認印 林/太郎 絵葉書 鷲と剣の絵、全面若草色
- ② 発信 消印 第二軍/37-10-17/第□野戦局
- ③ 着信 消印 不明/37-10-24/后3

東京市本郷区駒込千駄木町  
郵便 二十一番地  
便印 森 於菟殿  
は印刷 森 第二軍々医部  
か(茶、) 森 林太郎  
き(茶、) 森 林太郎

① 差出人認印 林/太郎 絵葉書 戰場へ送る白衣を畳む主婦  
② 発信 消印 第二軍/37-10-12/不明  
③ 着信 消印 東京芝/37-11-2/不明

①明治三拾七年日露戦役二方リ/従軍軍人二頒ツタメ之ヲ製ス

●大正七年十一月七日 東京市本郷区千駄木町二十一 森於菟、同富貴  
宛 奈良より

東京市本郷区駒込千駄木町  
郵便 二十一番地  
便印 森 於菟様  
は印刷 森 於菟様  
か(紫、) 同 富貴様  
き(紫、) 同 富貴様

一銭  
五厘

柏原之絵葉書到  
着イタシ候只今鹿ガ  
盛ニ鳴キ居候  
十一月七日夜 奈良 森

堂月二良奈

(表)

(裏)

全集未収載として検討してきた三通の葉書は、厳密に言えば明治三十七年十月十二日付森於菟宛葉書のみ未発表、全集未収載である。あとの全集未収載の二通は、編者がその事を意識せず図録等に収録し公表されている。明治三十七年十月十六日付森志け宛葉書は、「生誕百三十年記念 森鷗外展 図録」(主催 NHKサービスセンター、監修 長谷川泉、編集 寺岡襄、一九九二年七月)に収録されている。また、大正七年十一月七日付の森於菟・富貴宛葉書は、「鷗外をめぐる百枚の葉書」(企画 鷗

全集未収載として検討してきた三通の葉書は、厳密に言えば明治三十七年十月十二日付森於菟宛葉書のみ未発表、全集未収載である。あとの全集未収載の二通は、編者がその事を意識せず図録等に収録し公表されている。明治三十七年十月十六日付森志け宛葉書は、「生誕百三十年記念 森鷗外展 図録」(主催 NHKサービスセンター、監修 長谷川泉、編集 寺岡襄、一九九二年七月)に収録されている。また、大正七年十一月七日付の森於菟・富貴宛葉書は、「鷗外をめぐる百枚の葉書」(企画 鷗

東京市本郷区駒込千駄木町  
郵便 二十一番地  
便印 森 於菟様  
は印刷 森 於菟様  
か(紫、) 同 富貴様  
き(紫、) 同 富貴様

一銭  
五厘

柏原之絵葉書到  
着イタシ候只今鹿ガ  
盛ニ鳴キ居候  
十一月七日夜 奈良 森

堂月二良奈

(表)

(裏)

全集未収載として検討してきた三通の葉書は、厳密に言えば明治三十七年十月十二日付森於菟宛葉書のみ未発表、全集未収載である。あとの全集未収載の二通は、編者がその事を意識せず図録等に収録し公表されている。明治三十七年十月十六日付森志け宛葉書は、「生誕百三十年記念 森鷗外展 図録」(主催 NHKサービスセンター、監修 長谷川泉、編集 寺岡襄、一九九二年七月)に収録されている。また、大正七年十一月七日付の森於菟・富貴宛葉書は、「鷗外をめぐる百枚の葉書」(企画 鷗

外記念本郷図書館、編集 森鷗外記念会、発行 文京区教育委員会、平成四年七月九日)に収録されている。

おわりに

ここに掲載した葉書は、最後の一通を除いてすべてペン書きである。鷗外は日露の戦場で常にインクを外套の隠しに、ペンを背囊の中に入れていた。帷幕の中で凍ったインクを解かしつつ、家族宛にペンを執った。鷗外の心情に思いを馳せ、次に正誤の一覧表を示す。

《全集の表記を訂正すべき葉書》

全集の表記				全集の表記の訂正			
番号	書簡	(明治)年月日	宛名	転載か	(明治)年月日	宛名	本文訂正の必要の有無
489		38年6月19日	森於菟	転載	37年6月19日	森於菟	無
476		38年5月30日	森於菟	否	38年5月31日	森於菟	有
439		38年3月5日	森於菟	否	38年3月5日	森志け	無
394		37年10月21日	森於菟	転載	推定38年10月21日	森於菟	有
386		37年10月9日	森於菟	転載	38年10月9日	森於菟	有
363		37年5月26日	森於菟	転載	38年5月26日	森於菟	有
362		37年5月26日	森於菟	転載	38年5月26日	森於菟	有
361		37年5月26日	森於菟	転載	38年5月15日	森於菟	有
360		37年5月26日	森於菟	転載	38年5月26日	森於菟	有

《全集未収録の葉書》

番号	年月日	宛先	転載	年月日	宛先	転載	必要の有無
438	38年3月2日	森於菟	転載	38年3月2日	森志け	無	無
693	43年1月10日	森於菟	否	43年1月11日	森於菟	無	無
626	38年12月30日	森潤三郎	否	38年12月22日	森潤三郎	無	無
539	38年9月7日	森於菟	転載	38年9月7日	森潤三郎	有	有
531	38年8月24日	森於菟	転載	38年8月24日	森潤三郎	無	無
519	38年8月8日	森於菟	否	38年8月8日	森於菟	有	有
516	38年8月7日	森於菟	転載	38年7月23日	森於菟	無	無
515	38年8月7日	森於菟	転載	38年7月23日	森潤三郎	無	無
514	38年8月6日	森於菟	転載	38年8月5日	森於菟	無	無

年月日	宛先	文面
●明治37年10月12日	森於菟宛	無事 十月十二日
●明治37年10月16日	森志け宛	当方無事 十月十六日
●大正7年11月7日	森於菟宛 同 富貴	柏原之絵葉書到着イタシ候只今 鹿方盛ニ鳴キ居候 十一月七日夜 奈良 森

附記

本考執筆にあたり、資料閲覧に関し東京都文京区立鷗外記念本郷図書館にお世話になりました。記してお礼を申しあげます。

一九九九年十一月三日